

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年1月24日 NO.81

オー君 「ねえ！花ちゃん。サイクリングは楽しいね。」

花ちゃん 「そうね。風がちょっと冷たいけど、気持ちいいわね。」

モンタ博士「それはよかったね。でも、交通ルールをしっかりと守って、安全運転するんですよ。それにしても、国立は地面が平らでよかったね。」

花ちゃん 「そうですね。国立駅まではまっすぐだし、平らだし、運転しやすいわ。」

オー君 「モンタ博士のおうちの近くは平らではないの。」

モンタ博士「モンタ博士のおうちの近くはね、山や丘があって、坂道もいっぱいあるよ。」

オー君 「ふーん。そうなんですか。ところで、なぜ『坂道（さかみち）』ってあるの。」

花ちゃん 「そんなのきまってるわ。坂の上と坂の下があるでしょ。だから坂道なのよ。」

オー君 「つまり、地面では高い所と低い所があるということだな。でも、どうして？」

花ちゃん 「でも、どうして？って言われてもこまっちゃうわ。」

オー君 「おいら、地面の高い所と低い所を作ったやつがだれだか知りたいんだ。」

花ちゃん 「うーん。むずかしい。モンタ博士！助けてくださーい。」

モンタ博士「二人ともこまってしまったようだね。結論（けつろん）から言うとね、国立市の場合は『多摩川（たまがわ）』という川がつくったのさ。」

オー君 「え！多摩川？どういうことですか。」

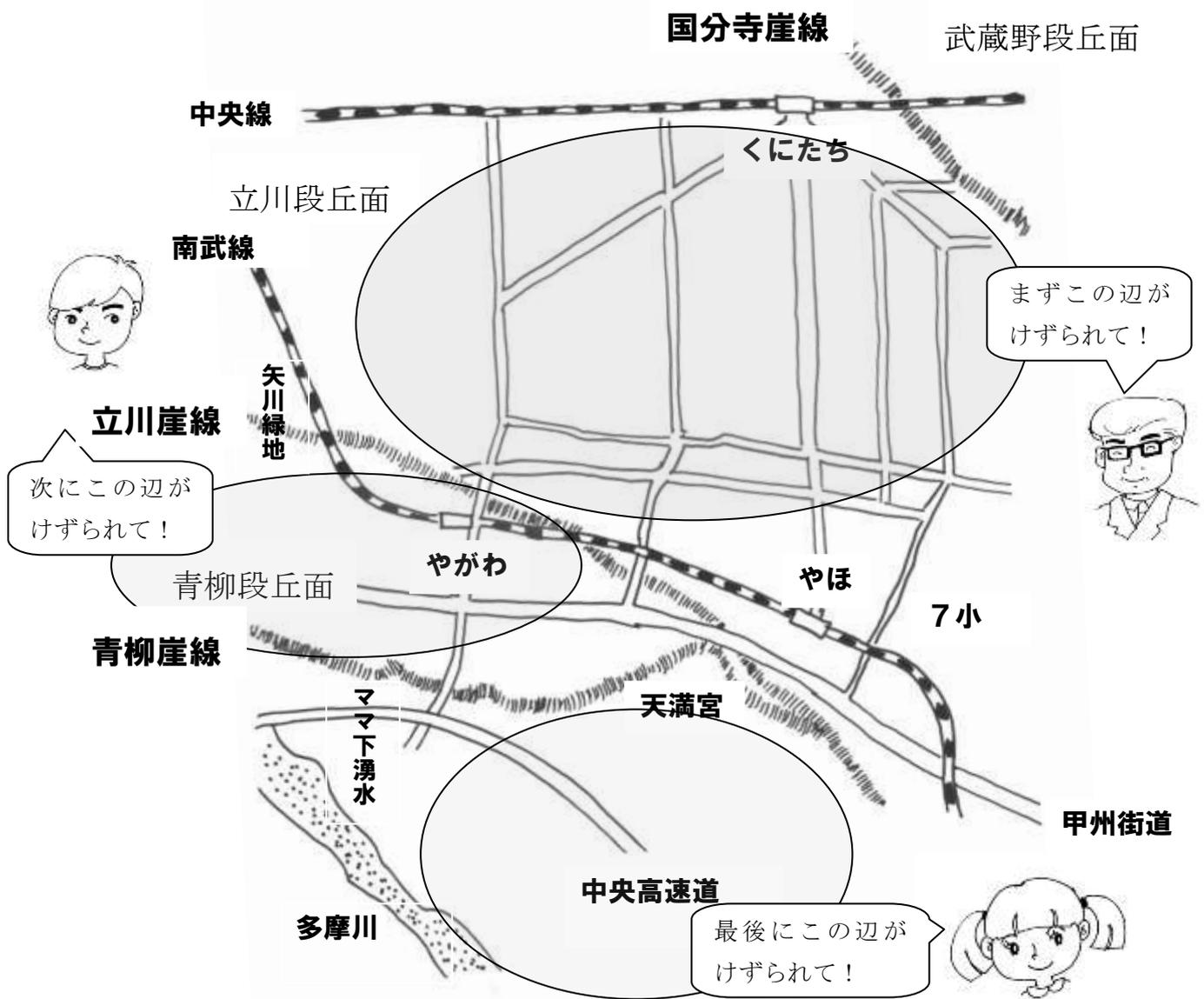
モンタ博士「まずね、国立には、東から西にかけて、多摩川にそって武蔵野段丘（むさしのだんきゅう）、立川段丘、青柳（あおやぎ）段丘の3つの段丘があるんだ。」

オー君 「だんきゅう？段丘？何ですか。それ？」

モンタ博士「丘や大地のはしが、平らな面と急ながけで、いくつかの階段（かいだん）のようになっている地形（ちけい）のことだよ。」

花ちゃん 「あ！そうか、多摩川があっちこっちに流れて、それでできた段丘なんですね。」

モンタ博士「そのとおり。だから、河岸（かがん）段丘というんだよ。ついでに、段丘と段丘とのさかいのがけのことを『ハケ』ともよんでいるんだ。」



モンタ博士「つまり、今の国立は、長い年月をかけて多摩川がつくったということなのさ。」

オー君 「長い年月って、どのくらいですか。」

モンタ博士「武蔵野段丘面の武蔵野ローム層は、約6万年前に堆積（たいせき）した火山灰なので、6万年前は多摩川の河床（かしょう）であり、立川段丘面のローム層は、約3万年前の火山灰の堆積ですから、立川段丘面は3万年前は多摩川の河床であり、さらに、立川段丘面の形成された後、1万5000年ぐらい前にできたのが、青柳段丘であるといわれているんだよ。」

オー君 「うわあー！ずいぶんと大昔にできたんですね。」

花ちゃん 「そのもっともっと前は、国立市は、どうなっていたのですか。」

モンタ博士「150～200万年前は、国立市は、まだ海の中だったのさ。その後、地面が盛り上がり、海岸線が今と同じようになったのは10万年くらい前さ。」